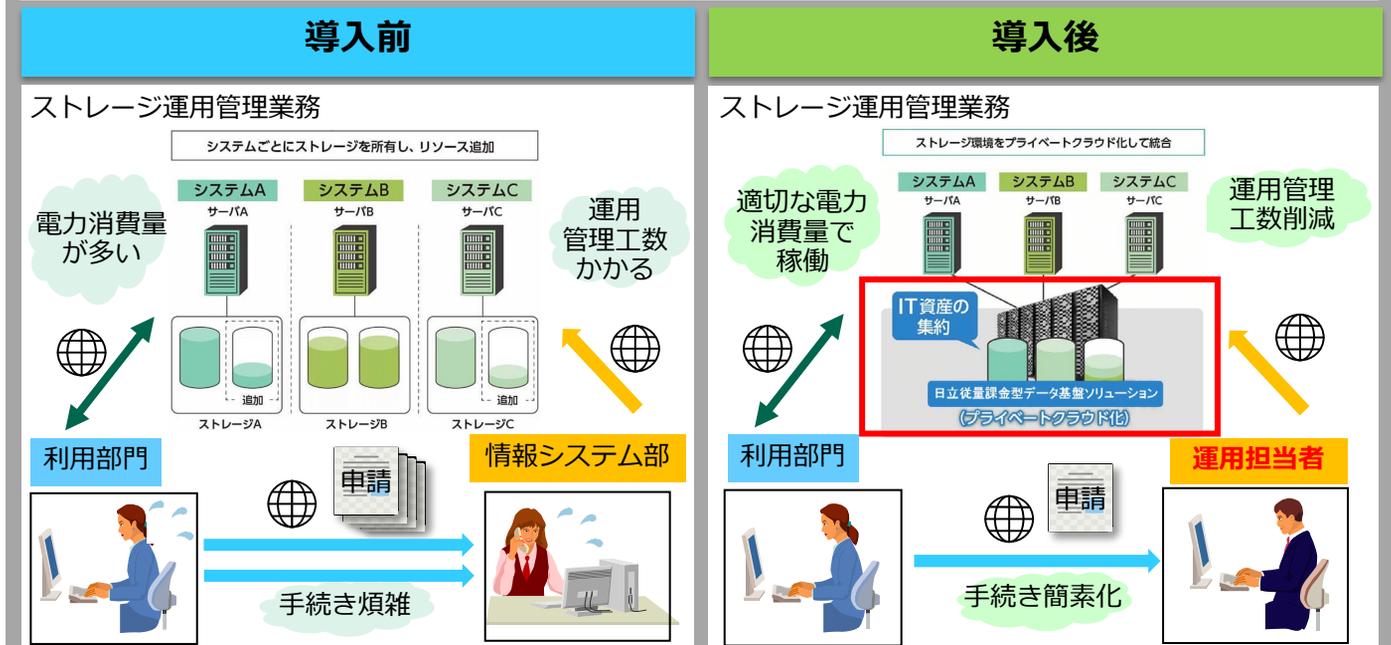


日立従量課金型データ基盤ソリューションにより、ストレージの全体最適化と運用サービスを提供し、「使用機器の消費電力」と「利用部門・情報システム部の作業工数」を削減。
(CO₂排出量35%削減 (*2)参照)

■お客さまの課題

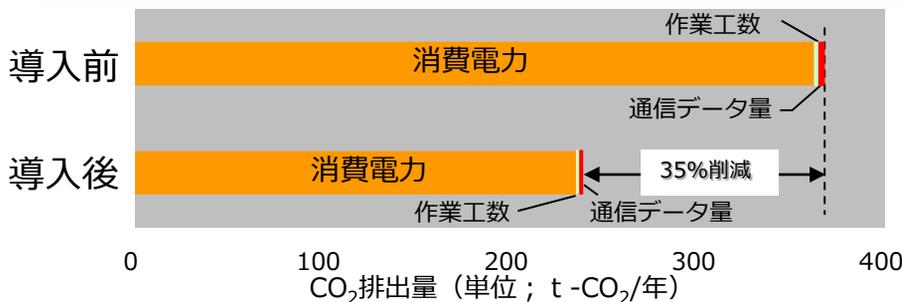
- ①使用するストレージが多いため、電力を消費。
- ②システムごとにストレージを導入しており、ストレージ管理が煩雑。
 ストレージの増設・更新などの申請手続きに工数がかかっている。

■機能単位：ストレージ監視、ストレージ管理、ストレージ増設・更新などの作業における1年間の効果を検証する。



■効果

- ①日立従量課金型データ基盤ソリューションの導入により、ストレージ運用管理業務を最適化し、ストレージの使用効率向上と機器消費電力を削減。
- ②お客さまの運用管理工数を削減。



- 環境負荷低減要因
 - ・消費電力の削減
 - ・作業工数の削減
- 環境負荷増加要因
 - ・増加要因なし

(*2) **CO₂排出量：35%削減 (128 t-CO₂/年削減)**

- ・環境負荷要因は評価条件や評価モデルにより値が異なります。評価モデルのシステム構成はお問い合わせ下さい。
- ・本評価は、(株)日立製作所のCO₂算定手法であるSI-LCA^{(*)3}を使用し、2022年2月時点の情報で使用ステージを評価対象として算定しています。
- ・ストレージは、VSP5500で評価しています。

(*3) **SI-LCA : System Integration-Life Cycle Assessment**

2006年3月に日本環境効率フォーラム (現・LCA日本フォーラム) が発行した「平成17年度 情報通信技術 (ICT) の環境効率評価ガイドライン」に準拠した手法です。

※EverFlex は、Hitachi Vantara LLC の商標または登録商標です。